

第109期

株主通信

2022年1月1日～2022年12月31日

KITZ株式会社 **キッツ**

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2022年2月、長期経営ビジョン『Beyond New Heights 2030「流れ」を変える』及び2024年度を最終年度とする第1期中期経営計画2024を策定しました。第1期中期経営計画の初年度である当期は、半導体製造設備向けの好調のほか、原材料価格の高騰等を受けて実施した価格改定効果もあり、前期と比較して大幅な増収増益となりました。これにより、連結売上高及びセグメント別売上高が2024年度の計画値を上回ったことから、第1期中期経営計画の定量目標を上方修正することといたしました。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年3月

代表取締役社長 **河野 誠**

エミール・ガレ
フランスの薔薇文花瓶

制作年：1902年
高さ：18.8cm

オールド・ローズを描いたガレ晩年の名作です。現在2万種以上あるバラの品種、その元とされる原種の一つで、「フランスのバラ」を意味する「ロサ・ガリカ」の学名で呼ばれる花がテーマになっています。天に向かう赤いつぼみが、成長と飛躍のエネルギーを表しています。

北澤美術館所蔵

当期の業績と今後の取り組み内容について
河野社長に伺いました。

代表取締役社長 河野 誠



当期(2022年度)の連結業績の概要

Q 当期は前期に比べ増収となりました。

A 事業環境の急変への対応を迫られるも、
バルブ事業・伸銅品事業とも大幅な増収

当期の連結売上高は、前期比241億24百万円増の1,599億14百万円となりました。2007年3月期の1,495億12百万円を上回り過去最高となりました。新型コロナウイルス感染症対策が世界的に進んだことによる経済活動の回復の流れが見られた一方で、中国のゼロコロナ政策やロシアによるウクライナ侵攻の影響等により、サプライチェーンの混乱、エネルギー資源・原材料価格の高騰や円安進行等、厳しい状況が継続しました。

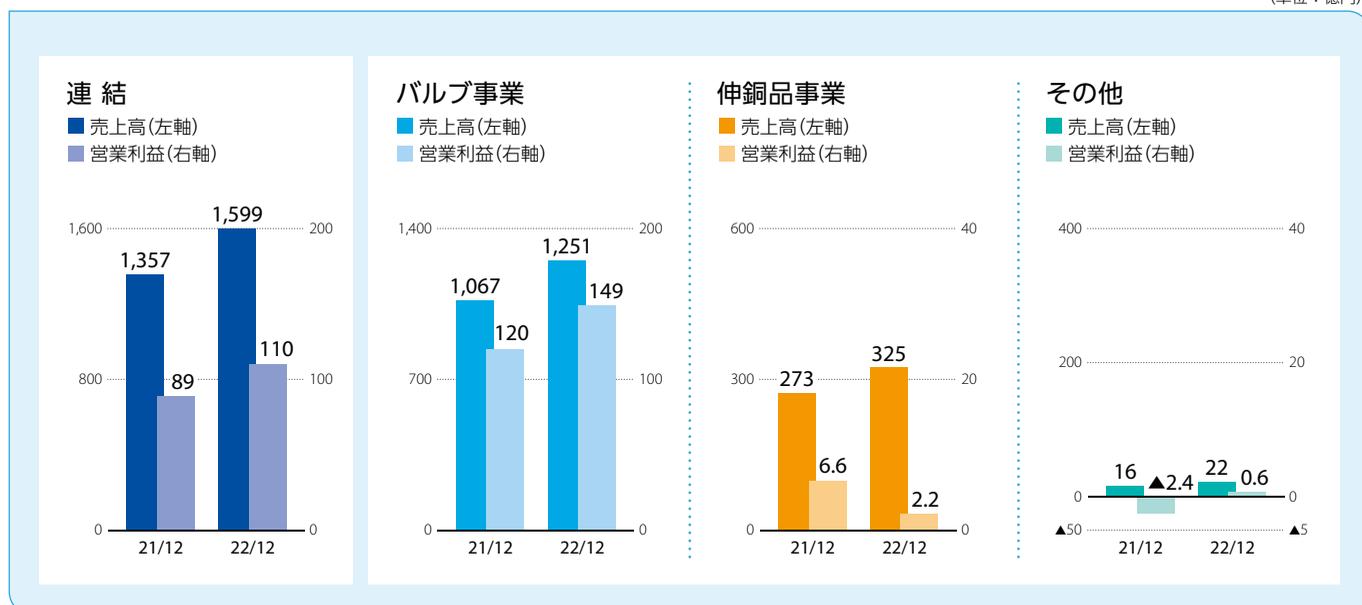
バルブ事業においては、半導体製造設備向けの好況が国内・海外とも継続したこと、原材料価格高騰の影響を受け価格改定を実施したことによる効果、米州向け・アセアン向けを中心とした増収及び為替影響により、売上高は前期比184億34百万円増の1,251億89百万円となりました。

伸銅品事業においても、売価に影響を与える原材料相場の上昇に伴う販売価格の上昇及び販売量の増加により、前期比51億46百万円増の325億13百万円となりました。

その他(サービス関連の事業)については、ホテル事業でまん延防止等重点措置の全面解除等、行動制限が緩和されたことによる宿泊客の増加等により、前期比5億43百万円増の22億12百万円となりました。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：億円)



※セグメント別営業利益は全社費用等消去前の数値となっています。

Q 営業利益・経常利益も増益となりました。

**A バルブ事業が牽引し、
連結営業利益は大きく伸長**

バルブ事業の営業利益は、原材料価格高騰を価格改定効果でカバーするとともに増収効果もあり、前期比28億92百万円増の149億80百万円となりました。

伸銅品事業の営業利益は、第1四半期の営業損失を直行率

の改善等により黒字化することができたものの、原材料相場の急落に伴う販売単価の下落の影響やエネルギーコストの上昇等により、前期比4億43百万円減の2億22百万円となりました。また、その他(サービス関連の事業)は、68百万円(前期は2億43百万円の営業損失)となり、連結営業利益は前期比20億60百万円増の110億51百万円となりました。経常利益は前期比30億70百万円増の120億45百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益も前期比35億95百万円増の85億49百万円となりました。

第1期中期経営計画2024の1年目を振り返って

Q 中期経営計画初年度の成果を教えてください。

**A 各市場の特性を踏まえた施策の推進により、
確実に前進**

当期の実績としては、建築設備市場と機械装置市場が若干の計画未達となりましたが、ほかの6つの市場は初年度計画を上回る業績を残すことができました。機能性化学市場は中長期的に伸ばしていく分野として、市場・顧客の分析を行うとともに新商品の開発に取り組みました。また、水素/低炭素市場は物件の受注に重点を置き、受注・内示を5件獲得することができました。石油化学、水処理、半導体装置及び半導体材料(フィルター)の各市場も順調に推移しました。

この結果、第1期中期経営計画2024の初年度である2022年度の連結売上高及びセグメント別売上高が、最終年度である2024年度の計画値を上回ったことから、今後の事業環境の見通し及び足元の業績動向を踏まえ、さらなる業績の向上を目指して定量目標を見直し、次ページの通り上方修正いたしました。

**Q 長期経営ビジョンと中期経営計画の
社員への浸透について教えてください。**

A エンゲージメントフォーラムを実施

2022年2月に発表した長期経営ビジョンと中期経営計画を当社グループの隅々まで浸透させるため、経営陣と社員の対話イベント「Engagement Forum(エンゲージメントフォーラム)」をキッツや国内・海外のグループ会社で約40回実施しました。私から長期経営ビジョンと中期経営計画の内容を直接説明し、社員に「自分ごと」としてとらえてもらう機会とするともに、参加者との対話を重視し、各回の実施時間の半分近くは質問に答える形式を取りました。社員から日ごろ抱えている課題、思いや提案を聞くことができ、手応えを感じています。今後も、グループの一体感を醸成し、社員の「働きがい」や「働きやすさ」のレベル向上に取り組んでまいります。

今期(2023年度)の経営計画

Q 今期の業績見通しについて教えてください。

**A 経営の基軸を「中長期的な投下資本収益性の
向上」に置いた目標管理を実施し、
企業価値の向上を目指す**

国内のコロナ対策の活動制限緩和に伴う緩やかな経済回復といった明るい兆しもありますが、グローバルな経済動向

としては、インフレと金利上昇、為替動向、サプライチェーン問題等、不透明な経営環境が続くと認識しています。このような状況の中、半導体市場の中長期的な拡大、データセンター投資の継続、機能性化学及び水素/低炭素需要の増加に対応し、半導体向けの生産能力向上や新製品の市場投入等による新規市場分野の攻略を進めるとともに、「中長期的な投下資本収益性の向上」に向けた目標管理を実施し、企業価値の向上を目指してまいります。

第1期中期経営計画2024(2022～2024年度)の実績と数値目標(2023年2月見直し)

| | 2021年度 | 2022年度 | | 2023年度 | 2024年度 | |
|------|-------------|-------------------|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 実績 | 当初計画 (22年2月発表) | 実績 | 通期計画 (23年2月発表) | 当初計画 (22年2月発表) | 修正計画 (23年2月発表) |
| 売上高 | ▶ 1,357億円 ▶ | ▶ 1,430億円 ▶ | ▶ 1,599億円 ▶ | ▶ 1,670億円 ▶ | ▶ 1,500億円 ▶ | ▶ 1,700億円 ▶ |
| 営業利益 | ▶ 89億円 ▶ | ▶ 100億円 ▶ | ▶ 110億円 ▶ | ▶ 119億円 ▶ | ▶ 120億円 ▶ | ▶ 130億円 ▶ |
| ROE | ▶ 6.4% ▶ | ▶ 7.6% ▶ | ▶ 10.0% ▶ | ▶ 9%以上 ▶ | ▶ 8%以上 ▶ | ▶ 9%以上 ▶ |

セグメント別売上高

| | | | | | | |
|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| バルブ事業 | ▶ 1,067億円 ▶ | ▶ 1,122億円 ▶ | ▶ 1,251億円 ▶ | ▶ 1,347億円 ▶ | ▶ 1,185億円 ▶ | ▶ 1,366億円 ▶ |
| 伸銅品事業 | ▶ 273億円 ▶ | ▶ 290億円 ▶ | ▶ 325億円 ▶ | ▶ 300億円 ▶ | ▶ 295億円 ▶ | ▶ 310億円 ▶ |
| その他 | ▶ 16億円 ▶ | ▶ 18億円 ▶ | ▶ 22億円 ▶ | ▶ 23億円 ▶ | ▶ 20億円 ▶ | ▶ 24億円 ▶ |

セグメント別営業利益

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| バルブ事業 | ▶ 120億円 ▶ | ▶ 133億円 ▶ | ▶ 149億円 ▶ | ▶ 164億円 ▶ | ▶ 151億円 ▶ | ▶ 170億円 ▶ |
| 伸銅品事業 | ▶ 6億円 ▶ | ▶ 8億円 ▶ | ▶ 2億円 ▶ | ▶ 4億円 ▶ | ▶ 10億円 ▶ | ▶ 8億円 ▶ |
| その他 | ▶ ▲2億円 ▶ | ▶ 0億円 ▶ | ▶ 0億円 ▶ | ▶ 0億円 ▶ | ▶ 1億円 ▶ | ▶ 1億円 ▶ |
| 調整額 | ▶ ▲35億円 ▶ | ▶ ▲41億円 ▶ | ▶ ▲42億円 ▶ | ▶ ▲49億円 ▶ | ▶ ▲42億円 ▶ | ▶ ▲49億円 ▶ |

非財務目標※1

| | | | | | | |
|---|--------------|-------|--------------|-------|----------|----------|
| CO ₂ 削減率 (2013年度比、国内グループ) | ▶ ▲28.1%※2 ▶ | ▶ – ▶ | ▶ ▲65.0%※6 ▶ | ▶ – ▶ | ▶ ▲80% ▶ | ▶ ▲80% ▶ |
|---|--------------|-------|--------------|-------|----------|----------|

社員エンゲージメントスコア

| | | | | | | |
|-----------|-----------|-------|-----------|-------|----------|----------|
| 働きがい※3 | ▶ 48pt ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 48pt ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 56pt ▶ | ▶ 56pt ▶ |
| 働きやすさ※4 | ▶ 43pt ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 44pt ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 55pt ▶ | ▶ 55pt ▶ |
| 女性社員全体比率 | ▶ 21.7% ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 22.0% ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 23% ▶ | ▶ 23% ▶ |
| 女性管理職比率※5 | ▶ 3.4% ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 3.4% ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 10% ▶ | ▶ 10% ▶ |
| 男性育児休業取得率 | ▶ 29.0% ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 35.3% ▶ | ▶ – ▶ | ▶ 50% ▶ | ▶ 50% ▶ |

※1 CO₂削減率を除きキッツ単体 ※2 2020年12月期実績を2021年12月実績(確定値)に置き換え(▲26.9%⇒▲28.1%) ※3 目標に向けた貢献意欲や帰属意識、自発的努力等を測定する質問項目におけるスコア ※4 スキルや能力を活かす機会、働きやすい環境等を測定する質問項目におけるスコア ※5 管理職:部門長職に就いている社員 ※6 暫定値

Q 最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。

A 長期経営ビジョンの達成に向けて

当期末の配当金につきましては、1株当たり18円(前回公表より2円増配)とさせていただきます。中間配当として15円の配当を実施しておりますので、年間配当額は33円と過去最高となり、連結配当性向は34.6%となりました。

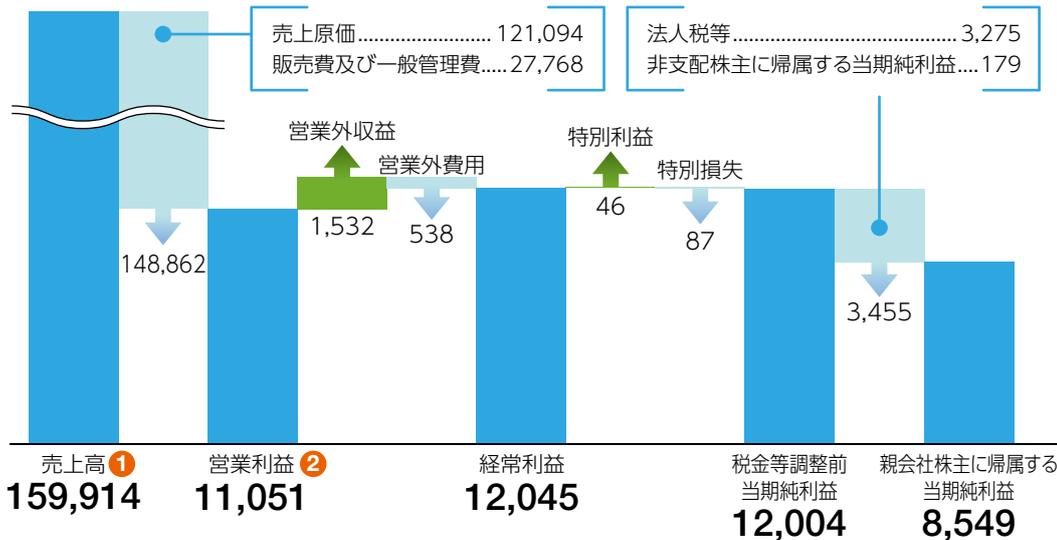
キッツは、創業70周年を機に長期経営ビジョン『Beyond New Hights 2030「流れ」を変える』を策定するとともに企業理念を刷新いたしました。私たちは、ゆたかな地球環境と持続可能な未来を創造することが、社会に対して果たすべき使命であると認識し、創業以来培ってきた流体制御技術と材料開発をさらに磨き上げ、社会インフラを支え続けてまいります。外部環境の変化に合わせて「流れ」を変え、2030年に向けてさらなる高みを目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

連結損益計算書の概要

当期 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(単位：百万円)



Point 1

売上高
 パルプ事業の価格改定効果のほか、半導体製造設備向けの好況維持、為替の影響及び米州・アセアン向けを中心とした増収、また、伸銅品事業における、原材料相場の上昇に伴う販売価格の上昇及び販売量の増加により、前期比17.8%増の1,599億14百万円となりました。

Point 2

営業利益
 営業利益は、エネルギーコスト上昇の影響を受けた伸銅品事業の減益を、好調なパルプ事業の増益がカバーし、前期比22.9%増の110億51百万円となりました。

Point 3

総資産
 長期借入金の返済による現金及び預金の減少がありました。棚卸資産や有形固定資産並びに受取手形、売掛金及び契約資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ91億49百万円増加し1,525億69百万円となりました。

Point 4

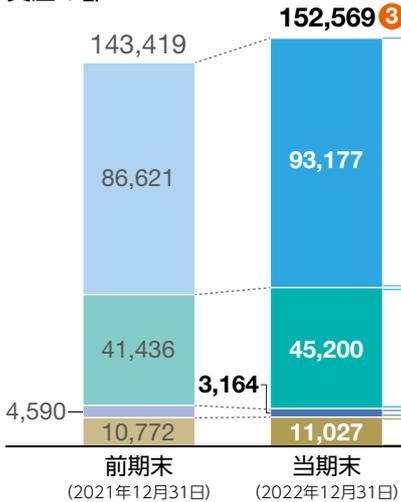
負債
 支払手形及び買掛金の増加等がありました。長期借入金の返済による減少等により、前連結会計年度末に比べ6億39百万円減少し615億26百万円となりました。

Point 5

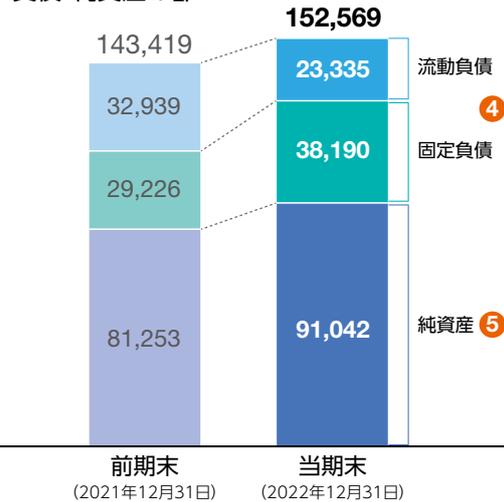
純資産
 配当金の支払いはありましたが、親会社株主に帰属する当期純利益85億49百万円の計上や為替換算調整勘定の増加等により、前連結会計年度末に比べ97億89百万円増加し910億42百万円となりました。

連結貸借対照表の概要

資産の部



負債・純資産の部



主要連結財務指標の推移

売上高



営業利益



経常利益



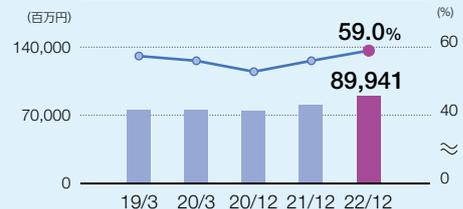
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



自己資本/自己資本比率



※本株主通信中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。
 ※決算期変更の変則期間である2020年12月期は9ヵ月決算となっています。

当社初のサステナビリティ・リンク・ボンドを発行

キッツグループの企業理念である「キッツ宣言」の実践に向け、2022年9月に100億円のサステナビリティ・リンク・ボンドを発行しました。キッツグループは長期経営ビジョンにおいて、ESGの各分野で重点テーマを特定し、環境に関する取り組みとしてCO₂ゼロ・環境負荷ゼロ・リスクゼロの「3ZERO(トリプルゼロ)」実現を掲げています。本社は、喫緊の社会課題である気候変動問題への対応として、国内グループ会社のScope1及びScope2におけるCO₂排出量削減率を重要な評価指標としています。

なお、本社債発行にあたり、国際資本市場協会(ICMA)が定める「サステナビリティ・リンク・ボンド原則 2020」及び環境省が定める「グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン 2022年版」への適合性を確認したセカンドオピニオンを、株式会社格付投資情報センターより取得しています。

●重要な評価指標(目標値)

| | | 2013 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2030 |
|-----------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| Scope 1-2 | CO ₂ 排出量(t) | 65,933 | 13,187 | 12,066 | 11,011 | 9,890 | 6,593 |
| | CO ₂ 排出量削減率(%) 2013年度比 | - | 80.0% | 81.7% | 83.3% | 85.0% | 90.0% |

本社移転 汐留(東京汐留ビルディング)へ

キッツは、2023年11月(予定)に本社を千葉県千葉市美浜区から東京都港区の汐留に移転します。これに伴い、都内に所在している事業所やグループ会社の大半を集約し、キッツグループのさらなるシナジーの追求と意思決定の迅速化を図ります。また、社員相互のコミュニケーションの促進のほか、一つのオフィスに各機能が集約されることによるアイデアやイノベーションの創出を目指します。

利便性が高くアクセスの良い都心に移転することにより、物理的に距離が近くなるお客様や工場等との交流の活性化を図り、より一層の企業価値向上に取り組んでまいります。



環境長期ビジョン 3ZERO(トリプルゼロ)の具体的な取り組み

タイの生産子会社工場に太陽光発電システムを増設



キッツグループのタイの生産拠点で青銅・黄銅製バルブ及びバタフライバルブの製造を担うKITZ (Thailand) Ltd.は、環境に関する取り組み「3ZERO(トリプルゼロ)」のCO₂ゼロを達成するために太陽光発電システムを増設し、2022年9月に稼働を開始しました。環境負荷低減に寄与するため、2016年にメイン工場であるBangplee(バンプリ)工場に太陽光パネルを導入しましたが、このたび2,112枚を増設し、総パネル数3,612枚となりました。太陽光パネルによる発電量は、バンプリ工場における2021年の月平均使用電力量の10.3%に相当します。

伊那工場 LNG燃料転換によりCO₂排出量の削減へ

キッツは、2022年4月より国内主要製造拠点において、使用電力の100%を水力発電及び太陽光発電由来のCO₂フリー電力に切り替え、2030年には国内グループで▲90%*の削減を目指して脱炭素を推進しています。伊那工場では、これまでボイラーや暖房機のエネルギーとしてA重油やLPG(液化石油ガス)等を使用していましたが、2022年10月に、LNG(液化天然ガス)の貯蔵タンクを建設し、2023年1月より燃料転換を開始しました。環境負荷の低いエネルギーを採用することにより環境長期ビジョンの実現に向けた取り組みを進めています。

*2013年度比 CO₂排出量



「須崎優衣選手 特設応援サイト」ページ公開

2022年4月にキッツに入社した、レスリング女子50キログラム級の須崎優衣選手の特設応援サイトを公開しました。須崎選手のプロフィールのほか、レスリングとの出会いから今日に至るまでを自身が振り返って書きつづった歴史を掲載しています。2022年12月に開催された天皇杯全日本選手権大会で3年ぶり3度目の優勝を飾り、最優秀選手に贈られる天皇杯を初めて手にした様子も紹介しています。フォトギャラリーや大会スケジュールも随時更新しています。パリオリンピック出場を目指す須崎優衣選手にぜひご注目ください。



株主優待のご案内

キッツは、株主の皆様のご支援に対する感謝の気持ちを込めて、株主優待を実施しています(2022年12月31日時点で100株以上保有されている株主様が対象)。

100株以上

①「株主様ご優待案内」冊子(グループ会社優待券)

キッツグループの商品・サービスより、ホテル及び家庭用浄水器の各種優待券をご用意しています。

また、キッツが社会貢献活動の一環として、その活動を支援している北澤美術館の招待券を進呈いたします。



ホテル紅や(食事イメージ)

1,000株以上

①「株主様ご優待案内」冊子(グループ会社優待券)

上記と同じ

②オリジナルクオカード



1,000株以上 1,000円券 1枚

2,000株以上 2,000円券 1枚

3,000株以上 3,000円券 1枚

③以下の優待品より1点を選択

- 北澤美術館ガラス工芸カレンダー(大判サイズ)
- 北澤美術館日本画カレンダー(大判サイズ)
- 北澤美術館日本画カレンダー(卓上サイズ)
- 北澤美術館への寄付 1,300円
- 日本赤十字社への寄付 1,300円

●長期保有株主優待

12月31日時点で、5年以上かつ1,000株以上保有されている株主様につきましては、①～③の優待に加え、③の優待品よりさらに1点(計2点)をお選びいただけます。

●新規株主様への優待

6月30日までに、新規で1,000株以上保有された株主様に、北澤美術館ガラス工芸カレンダー1部をお送りいたします。



2023年版北澤美術館
ガラス工芸カレンダー

北澤
美術館

公益財団法人北澤美術館は、キッツの創業者 北澤利男が設立した美術館であり、キッツは、社会貢献活動の一環としてその活動を支援しています。北澤美術館は、19世紀末フランスのアル・ヌーヴォー期の世界第一級のガラス工芸品と現代日本画を中心に優れた作品を常時展示しており、国内外から高く評価されています。

株主優待制度による寄付のご報告

2021年12月31日時点の株主様を対象とした株主優待において、寄付をお選びいただいた株主様からの寄付金につきましては、下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

〈寄付金額〉・公益財団法人北澤美術館 5,701,200円 ・日本赤十字社 1,147,200円

〈寄付日〉2022年12月29日

株式の状況

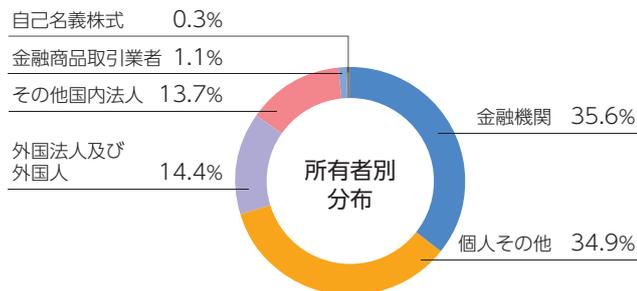
- 発行可能株式総数 400,000,000株
- 発行済株式の総数 90,117,974株

(注) 上記の発行済株式の総数には、当社が2022年12月31日に保有する自己株式278,537株を含めておりません。

- 株主数 14,651名
- 大株主(上位10位)

| 株主名 | 当社への出資状況 持株数(千株) 持株比率(%) |
|--------------------|-----------------------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 9,534 10.58 |
| 北沢会持株会 | 4,926 5.47 |
| 日本生命保険相互会社 | 4,303 4.78 |
| 株式会社日本カストディ銀行 | 4,267 4.73 |
| 住友生命保険相互会社 | 3,422 3.80 |
| 公益財団法人北澤育英会 | 3,411 3.79 |
| キッツ取引先持株会 | 3,312 3.68 |
| 株式会社三井住友銀行 | 2,553 2.83 |
| キッツ従業員持株会 | 2,162 2.40 |
| セコム損害保険株式会社 | 1,702 1.89 |

- (注) 1. 当社は、2022年12月31日現在、自己株式278千株を保有しております。また、持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いて計算しております。なお、当社は、「役員報酬BIP信託」を採用しており、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が当社株式418千株を保有しておりますが、当該自己株式には含めておりません。
2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 9,534千株
株式会社日本カストディ銀行 4,267千株
3. 住友生命保険相互会社の持株数には、変額口5千株及び特別勘定7千株を含んでおります。



期末配当金のお支払について

2023年2月22日開催の当社取締役会におきまして、第109期の期末配当金について、以下の通り決議されております。

期末配当金:1株当たり 金18円
効力発生日ならびに支払開始日:2023年3月13日(月)

同封の「第109期期末配当金領収書」により、払渡しの期間(2023年3月13日~2023年4月14日)内に最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、銀行等口座振込をご指定の方には、「第109期期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」の記載をご確認いただけますよう、お願い申し上げます。

配当方針

キッツは、株主の皆様への利益還元として配当金を経営上の重要課題と位置づけており、連結配当性向については、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準としております。なお、自己株式の取得につきましては、中長期の成長のための必要な投資額等を考慮したうえで、株式市場及び当社株価の動向、手元資金の状況等を勘案し、適宜検討いたします。今後も、株主様への利益還元をより一層充実させてまいります。



株主メモ

| | |
|--------------------------------|---|
| 事業年度 | 1月1日~12月31日 |
| 定時株主総会基準日 | 3月 定時株主総会議決権 12月31日 期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。 |
| 公告掲載方法 | 電子公告 公告掲載URL (https://www.kitz.co.jp) ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話 0120-232-711 (通話料無料) |

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

会社概要 (2022年12月31日現在)

| | |
|-------|--|
| 商号 | 株式会社キッツ |
| 本社 | 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1 TEL (043)299-0111(大代表) |
| 代表者 | 代表取締役社長 河野 誠 |
| 資本金 | 21,207,084,670円 |
| 設立年月日 | 1951年1月26日 |
| 従業員数 | (単体)1,422名 (連結)5,352名 |

ウェブサイトのご案内

企業情報のほか、決算情報や財務データなどを掲載しています。



<https://www.kitz.co.jp>

